

福祉サービス第三者評価結果報告書（平成 29 年度）

平成 30 年 3 月 30 日

社会福祉法人 京都市社会福祉協議会
京都市榎原児童館 館長 殿

〒150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 日本薬学会ビル 7F

評価機関名 一般財団法人 児童健全育成推進財団
(東京都福祉サービス評価第三者評価機関／機構 12-215)

電話番号 03-3486-5141

代表者氏名 理事長 鈴木 一光



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名	評価者氏名		所属
	①	渡部 博昭	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1201051
	②	豊倉 厚	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1401038
福祉サービス種別	児童館		
評価対象施設名称	京都市榎原児童館		
施設連絡先	所在地	〒615-8123 京都府京都市西京区榎原山路 11-10	
	電話番号	075-392-0644	
施設代表者氏名	館長 谷口 恵子		
契約日	平成 29 年 3 月 31 日		
自己評価票回答期間	平成 29 年 10 月 27 日～平成 29 年 11 月 24 日		館長・事務局回答項目
職員調査票回答期間	平成 29 年 11 月 10 日～平成 29 年 11 月 24 日		職員回答項目
訪問調査日	平成 29 年 12 月 14 日		

京都市檜原児童館評価結果

I. リーダーシップと意思決定

1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		
1	事業所が目指していること（理念、基本方針）を明確化・周知している	
	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している	○
	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○
	3. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○
2	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	○
	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	○
【講評】		
法人として基本理念と児童館の重点目標を掲げ、その実現に向けた取り組みを行っています		
<p>① 法人の基本理念は「京都市における社協行動指針2015」に明記しています。指針には児童館事業の「重点取組」を記載し、法人のホームページ、リーフレット、チラシ、児童館の利用案内への記載などの方法で公表しています。利用者にも法人が目指す「基本目標」「重点目標」について理解が深まるようにしています。児童館ではその「重点取組」を基本として事業計画を作成しています。</p> <p>② 業務権限や責任所在に関する規程を定めています。また、全職員対象の研修を開催し、法人幹部が講師となり児童館の現状課題や方向性、法人の理念を伝え理解を深める機会としています。</p> <p>③ 同じ行政区の法人所管児童館の館長によるグループ制により、運営主体の意向や必要な事務連絡、各館の情報交換を円滑に図っています。</p>		

Ⅱ. 経営における社会的責任

1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		
1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している		○
2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる		○
3. 事業所のコンプライアンスや社会的責任を明確にして、職員保護や法令遵守に対する取り組みをおこなっている		○
2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		
1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるよう取り組んでいる		○
2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法（事業者便り・会報など）で地域社会に事業所に関する情報を開示している		○
2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
1 事業所の機能や福祉の専門性を生かした取り組みがある		
1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など）		○
2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性を生かした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている		○
2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		
1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○
2. ボランティアの受け入れ体制を整備している（担当者の配置、手引き書の作成など）		○
3. 利用者や地域住民を対象としてボランティア育成をおこなっている		○
3 地域の関係機関との連携を図っている		
1. 地域の関係機関のネットワーク（連絡会など）に参画している		○
2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○
3. 小学校等利用者が関係する機関との連携を図っている		○
【講評】 利用者や地域の関係者に情報開示を行い、透明性の高い児童館の運営を心がけています ① 職員心得やサービス姿勢を「社協信条」に明示しています。「倫理」について研修を行うほか、「職場倫理チェックシート」を作成し、各館が活用することで倫理意識の維持・向上に努めています。そして、「事業報告書」「情報公開規程」「第三者評価受審結果」等必要な情報開示を行っています。また、法人所管児童館共通で実施する「利用者共通アンケート」の結果を「児童館だより」等に掲載し公表しています。 ② 会計監査人の設置、管理職対象のハラスメント研修、職員全体に「障害者差別解消法」研修を行う等、職員保護や法令遵守の推進を図っています。 ③ 京都市地域子育て支援ステーション事業の「基幹ステーション」として、子育てに関わる関係機関・団体のネットワークの基点となっています。各児童館では、「ステーションネットワーク」の広報物の発行や独自の取り組みが行われています。 ④ 「ボランティアの手引き」を独自に作成し、ボランティア担当を決めてその受け入れを進めています。		

Ⅲ. 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		
1 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）		
1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○
2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる		○
2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		
1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○
2. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○
3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		
1. 地域の福祉ニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる		○
2. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる		○
【講評】 利用者の意見・要望を受けとめ、児童館活動としての利用者サービスの向上に努めています ① 「苦情解決のための実務マニュアル」「苦情解決規則」を整備しています。法人に第三者委員会を置くとともに、児童館には苦情申出窓口を設置し、利用者の意向を酌むことに努めています。 ② 「利用者共通アンケート」を実施して、利用者の意向を児童館の事業計画や運営改善に活かしています。また、アンケート結果を児童館に掲示・掲載することで利用者や地域住民へ公表し、透明性の確保とサービス内容の向上を図っています。 ③ 学童クラブでは、保護者懇談会や個人面談を実施して、個別的な要望や意向を把握しています。児童館と家庭の共通認識が図られるように配慮しています。		

IV. 計画の策定と着実な実行

1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		
1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している		○
2. 年度単位の計画を策定している		○
3. 短期の活動についても、計画的（担当者・スケジュールの設定など）に取り組んでいる		○
2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		
1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている		○
2. 計画は、サービスの現状（利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など）を踏まえて策定している		○
3 着実な計画の実行に取り組んでいる		
1. 計画推進の方法（体制、職員の役割や活動内容など）を明示している		○
2. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している		○
2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
1. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している		○
2. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている		○
3. 利用者の負傷等に対応する傷害保険に加入している		○
4. 賠償すべき事故に対応する損害賠償保険に加入している		○
【講評】 法人の理念に基づいて事業計画を策定し、計画的な運営を行っています ① 「社協行動指針 2015」を基準に、児童館活動の基本的な方向性として事業計画を策定しています。地域福祉やコミュニティづくりを意識した児童館運営を行っています。 ② 職員行動評価の基準を作り、業績目標の設定と達成度について個別の評価を行っています。 ③ 法人独自に「事故や災害における予防と対応マニュアル」「衛生管理のためのマニュアル」等、各種危機管理のマニュアルを整備し、避難・消火訓練や「ヒヤリハット」の報告等、具体的な利用者の安全対策を講じています。併せて、市からの指示により各館の立地条件にあった「防災マニュアル」を作成しています。 ④ 活動中の利用者の負傷や、児童館が賠償すべき事案が起きた際等の不測の事態への備えとして、各児童館とも傷害保険・損害賠償保険に加入しています。		

V. 職員と組織の能力向上

1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		
1 事業所にとって必要な人材構成にしている		
1. 事業所の人事制度に関する方針（人材像、職員育成・評価の考え方）を明示している	<input type="radio"/>	
2. 採用に対する明確な基準を設けている	<input type="radio"/>	
2 職員の質の向上に取り組んでいる		
1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/>	
2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	<input type="radio"/>	
3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/>	
2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		
1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/>	
2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
2 職員のやる気向上に取り組んでいる		
1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/>	
2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
【講評】 人事考課制度や職員ヒアリングを導入して、人材育成と組織力の向上を図っています ① 採用に関する明確な基準を持っており、透明性確保のために公募による採用を行い、適材適所の人員配置に努めています。 ② 法人独自の人事考課制度により、望ましい職員像や行動基準を明らかにしています。 ③ すべての職員に「報・連・相」を徹底するよう心がけています。 ④ 職員一人ひとりの研修受講状況を管理し資質向上を図っています。研修終了後はレポートの提出が義務付けられており、伝達研修により研修内容の全体化と定着化を進めています。		

VI. サービス提供のプロセス

1 サービス情報の提供		
1 利用者や地域住民に対してサービスの情報を提供している		
1. 利用者や地域住民が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		○
2. 利用者や地域住民の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		○
3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		○
4. 放課後児童クラブの利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている		非該当
5. 事業所の利用促進につながるように創意ある広報活動がおこなわれている		○
【講評】 児童館のサービス情報は地域の協力を得て子どもや保護者へ届けられています ① 児童館だよりは、小学校での家庭数配布、自治連合会の協力による地域回覧をベースにして子どもや保護者に届けられています。また、児童館運営委員会を構成している社協会長、民協会長、主任児童委員、小学校長等の各委員にも毎月配布して情報が届く体制ができています。 ② 乳幼児親子向けの情報提供の充実を図るため、西京区保健福祉センターこどもはぐくみ室にも児童館だよりを配布しています。また西京区保健福祉センターが発行する「はぐくみだより」にも、親子が集える遊びのひろば情報を掲載しています。 ③ 見やすいサービス情報の発信を心がけており、児童館だよりの紙面は、利用者の視点に立って利用対象別に紙面をレイアウトしているほか、小学生向きの情報には必ずルビを付けています。また、今年度から京都市の児童館ホームページにも毎月の児童館だよりを掲載して利用者への周知を図っています。 ※京都市役所の方針で放課後児童クラブは希望者全てを受け入れるため、項目4は非該当とします。		
2 サービスの実施		
1 遊びの環境整備を行っている		
1. 遊ぶ際を守るべき事項（きまり）が、利用者に理解できるように決められている		○
2. 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある		○
3. 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している		○
4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている		○
【講評】 限られたスペースの中で、利用者が時間帯を上手に棲み分けて利用しています ① 施設の入口には大型の屋外掲示板が設置されており、児童館の基本的な利用案内を中心に、月のお知らせ、行事案内、地域子育て情報、ボランティア募集等が見やすく整理されて掲示されています。 ② 学童クラブの在籍児童が年々増える傾向にあり、現状は乳幼児親子、小学生、中学生等が、時間帯を上手に棲み分けて利用しています。一方で、乳幼児親子と小学生との交流等が十分に実現出来ないことや安全への配慮について課題として捉えています。 ③ 小学生の利用ニーズが高い卓球台の利用にあたっては、子ども同士のトラブルが多いため、必要に応じて安全配慮を含めた利用にあたってのルールを見直して遊戯室に掲示して周知を図っています。		
2 乳幼児と保護者への対応を行っている		
1. 乳幼児と保護者が日常的に利用している		○
2. 乳幼児活動が年間通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている		○
3. 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している		○

	<p>【講評】</p> <p>地域で活動する自主サークル等の多彩な子育て支援事業との連携を図っています</p> <p>① 登録制の「ちびっこクラブ」（2歳児以上）と、自由参加の「なかよしひろば」（0歳児以上）を主催事業として実施して利用者のニーズに応えています。一方で、秋からは幼稚園のプレ入園が始まることにより退会するケースも増える傾向にあって今後の課題として捉えています。</p> <p>② 地域で活動する自主サークルや、社協、民協が関わる子育てサロンなど多彩な事業との連携を図っています。特に自主サークルとは、事前に日程や活動スペースの調整をしているほか、適時、物品や消耗品等の支援も行っています。</p> <p>③ 「ちびっこクラブ」では、母親の当番活動が定着しており、出席確認や絵本や紙芝居の読み聞かせも含めて、学期毎に自主企画のプログラムを運営することで母親同士の交流にも繋がりができています。</p>								
3	<p>小学生への対応を行っている（核となる児童館活動）</p> <table><tr><td>1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している</td><td>○</td></tr><tr><td>2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている</td><td>○</td></tr><tr><td>3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている</td><td>○</td></tr><tr><td>4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている</td><td>○</td></tr></table> <p>【講評】</p> <p>一般来館児童を対象とした児童館らしいクラブ活動に取り組んでいます</p> <p>① 唯一のクラブ活動である「ホッとクラブ」は、3年生以上の一般来館児童を対象としており、月1回の活動を通して、自分たちが楽しむクリスマス会を企画運営するほか、児童館まつり実行委員会の中心的な役割を担っています。</p> <p>② 職員は、子ども自身が好きな遊びや読書等が自由に選択出来る育成環境をつくるとともに、一方で集団の関わりを大切にしたい遊びや活動への参加を促す声かけをしています。</p> <p>③ 一般来館児童の中にも、学童クラブ登録児童の中にも障害のある児童が利用しており、日常の遊びや生活を通して、子ども同士がお互いに理解を深める機会となっています。</p>	1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	○	2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○	3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている	○	4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○
1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	○								
2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○								
3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている	○								
4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○								
4	<p>中学生・高校生世代への対応を行っている</p> <table><tr><td>1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある</td><td>○</td></tr><tr><td>2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している</td><td>○</td></tr></table> <p>【講評】</p> <p>中学生の利用にあたって、利用マナーと職員との信頼関係が改善されてきています</p> <p>① 利用する中高生の利用者数は決して多くはないが、比較的頻繁に利用する中学生の7～8人のグループや児童養護施設に入所している中学生の利用があります。現状では継続的な利用ではないため、中学生の力を行事等に活かす取組みにつながっていないことを課題として捉えています。</p> <p>② 中学生の利用にあたっては、過去の事案を踏まえて、あいさつの励行、登録用紙の提出、携帯等の貴重品の預かり、遊具の片付け等を徹底する見直しを図り、少しずつ利用マナーが守られるようになり職員との信頼関係も改善されてきています。</p>	1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある	○	2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	○				
1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある	○								
2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	○								
5	<p>子どもの権利を尊重した支援を行っている</p> <table><tr><td>1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている</td><td>○</td></tr><tr><td>2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある</td><td>○</td></tr></table>	1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている	○	2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある	○				
1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている	○								
2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある	○								

	<p>【講評】 職員は子どもの何気ない声に耳を傾け、思いを受けとめたいと考えています</p> <p>① 年に一回、利用者アンケートを実施して、子どもの意見を参考にして館内のルール等についても決めています。また、子どもが主体となる事業については、子ども達の持っている力が発揮できるように支援しています。</p> <p>② 一般来館児童の3年生以上を対象とした「ホッとクラブ」では、登録した子どもたちがスタッフ会議で話し合っただけで決めたことにチャレンジして、職員が実現出来るようサポートしています。</p> <p>③ 職員は、子どもの何気ない声に耳を傾け、思いを受け止めてあげたいと願っています。そのために、子どもとゆっくりと向き合える雰囲気や相談できる環境を作っていくことが必要であり課題として感じています。</p>												
6	<p>配慮を要する児童・家庭への支援を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 障害のある児童も理解できるよう、イラストを活用した館内掲示を心がけています</p> <p>① 障害のある児童についての対応は、介助者や引率のヘルパーさんとの情報共有、報告、相談を受けて館長も含めて支援のあり方を検討しています。また、対応が非常に難しいケースについては、地域の放課後デイ等の専門職の協力を得て対応しています。</p> <p>② 児童館の利用や、学童クラブの生活の流れ、館内の決まりごと、行動の手順等について、障害のある児童にとっても理解できるように、イラストを活用したわかりやすい掲示物を必要な箇所に貼りだしています。</p> <p>③ 要保護児童を疑われるケースがあり、児童相談所に相談をして地域の関係機関が集まる会議が開催されました。その後も児童館として児童相談所と連携をとりながらケースの見守りを続けています。</p>	1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○	2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている	○	3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○						
1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○												
2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている	○												
3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○												
7	<p>地域の児童の育成環境づくりを行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】 ネットワークを通じて子育ての課題解決につながる道すじをつけたいと考えています</p> <p>① 檜原学区の地域子育て支援ステーションとして、館長が年4回、子育て支援連絡会を招集して地域の関係機関や団体と共同事業の推進や子育て支援に関わる情報交換を行なっています。</p> <p>② 子育て支援連絡会は事業の実施だけに留まらず、ネットワークの中で実効性のある情報交換を通じて、子育ての課題解決につながる道すじをつけていくことが重要であると認識しています。</p> <p>③ 児童館を支える児童館運営委員会を年1回実施しています。委員会は館長を除いて11名で構成され地域の社協、自治連、民協等を中心に情報交換や行事のサポート等の連携が図られています。</p>	1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○	2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	○	3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○						
1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○												
2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	○												
3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○												
3	<p>サービスの開始・終了時の対応【放課後児童クラブ併設の場合のみ該当】</p> <table border="1"> <tr> <td>1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている</td><td></td></tr> <tr> <td>1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている</td><td></td></tr> <tr> <td>1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた</td><td>○</td></tr> </table>	1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○	2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている	○	3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○	2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた	○
1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている													
1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○												
2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている	○												
3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○												
2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている													
1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた	○												

	書式に記録し、把握している	
	2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○
	3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○
<p>【講評】 安心して学童クラブの生活が過ごせるよう保護者の理解を得るようにしています</p> <p>① 1月に登録説明会を行ない、入会決定後の3月に入会説明会を実施しています。説明会では重要事項を入会のしおりに沿って説明するとともに、一日の生活の流れや行事の様子については映像で紹介しています。</p> <p>② 学童クラブの利用開始にあたっては、児童台帳に必要事項を記載して提出していただき、子どもの支援に必要な個別事情や要望等については、保護者から聞き取りをして必ず記録化して職員間でも情報共有しています。</p> <p>③ 入会後の子どもの不安やストレスが軽減されるよう、4月当初は子ども一人ひとりに気を配り、保護者からの相談にも気軽に応じています。また6月には新入会児童の全保護者を対象に個人面談を行っています。</p>		
<p>4 特に配慮を要する児童・家庭の個別状況に応じた計画策定・記録</p>		
<p>1 定められた手順に従って情報収集、分析および課題設定を行い、子ども・家庭の課題を理解した個別の支援を計画している</p>		
	1. 配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等を、明示する手続きを定め、記録し把握している	○
	2. 支援の計画は定期的見直しの時期と手順を定めている	○
	3. 個別の支援内容は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して計画的に作成されている	○
	4. 計画を保護者にわかりやすく説明している	○
	5. 配慮を要する子ども・家庭の支援について、関係機関との連携を図っている	○
	6. 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○
<p>2 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している</p>		
	1. 配慮を要する子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	○
	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○
<p>3 配慮を要する子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している</p>		
	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○
	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○
<p>【講評】 配慮を要する子どもへの支援をしていく上で、職員間で情報共有するよう努めています</p> <p>① 特に配慮を要する子どもへの支援をしていく上で、職員間で課題や状況の変化等について日々の打合せで情報共有するよう努めています。また、介助者と職員間の情報共有も行われ、介助者間の引き継ぎは介助者記録を基に行なわれています。</p> <p>② 全体で共有しなければならないケース記録についてはデータとして保存されていますが、日々の子どもへの対応や課題について記された支援の記録は日誌への記入や介助者記録等への記入に留まっています。また、個別の支援計画についても標準化に至っていないことから、支援の記録の整理と併せて今後の課題として捉えています。</p> <p>③ 特に配慮を要する子どもや家庭への支援については、保育園、学校、京都市児童館学童連盟の統合育成担当、発達相談員、さらに必要に応じて児童相談所との連携を図って対応しています。</p>		
<p>5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重</p>		

1 子どものプライバシー保護を徹底している		
1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○
2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている		○
2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		
1. 日常活動の中で子ども一人ひとりを尊重している		○
2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている		○
3. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している		○
4. 子どもの権利擁護のための規定が定められ、公表されている		○
<p>【講評】</p> <p>子どもの意見や意志を日常活動の中で確認して対応するよう心がけています</p> <p>① 個人情報の取り扱いについては、年度当初に保護者から確認を取った上で、外部への情報提供等の必要が生じた場合については、改めて保護者の承諾を得るようにしています。また、館内に法人のプライバシーポリシーを掲示しています。</p> <p>② 施設条件は十分とは言えないが、女兒のプールの着替えや、トイレの失敗等の場合についても他の児童の目に触れない環境を確保して、子どもの羞恥心に配慮した支援を行なっています。</p> <p>③ 日常活動の中で、子どもの様子に気を配り、子どもの意見を聴き、意志を確認して、子どもが納得できるような対応を心がけています。また、保護者の多様な価値観になるべく添えるよう努力しています。</p>		
6 事業所業務の標準化		
1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		
1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○
2. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○
2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		
1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている		○
2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○
3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる		○
3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		
1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている		○
2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している		○
3. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している		○
4. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている		○

【講評】

子どもや保護者の意見や要望を可能な範囲で次年度の事業に反映させています。

- ① 学童クラブの登録児童が年々増加する中で、子どもが安全に楽しく過ごせる環境、保護者が安心して利用し預けられる環境を最優先に据えて、業務の見直しや改善を進めています。
- ② 職員は年度内に京都市社会福祉協議会や児童館学童連盟等の研修に平均2回程度参加して、業務知識や技術を学んでいます。研修に参加した職員は研修内容を職場内に必ずフィードバックするようにしています。
- ③ 利用者アンケートの結果に基づいて、子どもの意見、提案を反映して次年度の遊具等の購入につなげています。また、保護者からの要望についても、可能な範囲で見直して事業等に反映させています。

VII. 情報の保護・共有

1 情報の保護・共有に取り組んでいる		
1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる		
1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	<input type="radio"/>	
2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/>	
2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		
1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	<input type="radio"/>	
2. 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている	<input type="radio"/>	
<p>【講評】</p> <p>個人情報等の重要な情報は、規程を整備して適切に保持・管理しています</p> <p>① コンピュータにはアクセス権限をかけ、万全に情報管理しています。</p> <p>② 必要な情報は職員が共有する仕組みを整え、個人情報のデータはサーバーで整理・保管しています。</p> <p>③ 「個人情報保護規程」「個人情報保護規程に関する事務取扱要領」を整備し、個人情報を適切に管理するとともに、準職員、実習生、ボランティアにも守秘義務を徹底しています。</p>		

総評

■特に良い点

ポイント1	地域関係機関や自主サークルと連携を図りながら乳幼児親子事業を実施しています
	児童館主催の登録制の「ちびっこクラブ」や、ひろば形式の「なかよしひろば」以外にも、樫原社会福祉協議会や民生児童委員協議会が主体となって、0歳児と保護者を対象とした「子育てサロン」を毎月1回運営しているほか、2つの母親自主サークルが、それぞれ月1～2回程度、趣向をこらしたプログラムを実施して、地域の子育て中の保護者から喜ばれています。
ポイント2	限られた施設条件の中で、乳幼児親子から中学生までが遊戯室等を時間帯によって上手に棲み分けて利用しています
	限られた施設条件の中で、特に遊戯室の利用については乳幼児親子、学童クラブ在籍児童、一般来館児童、中高生等が時間帯別に、利用を上手に棲み分けています。 また、事業予定や小学生等の利用がない時間帯には、10時～14時頃を目途に遊戯室を乳幼児親子のために開放するなどして利用の促進につなげています。
ポイント3	学童クラブ保護者会との連携のもと、子どもたちが安心して安定した生活ができるように配慮しています
	登録説明会、入会説明会などの保護者と関わる場面では、納得がいくまで保護者の質問や相談を受け付けています。入会説明会ではスライドを上映して学童クラブでの一日の流れや行事について理解を深めてもらっています。丁寧な対応は児童館との信頼関係を高めることに繋がっています。また、ドッジボール大会、児童館まつり（わくわくランド）、親子クリスマス会などの保護者会との共催事業もあり、児童館、保護者が連携して児童館を盛り上げる機運があります。

■改善が望まれる点

ポイント1	中高生の力を活かす取組みを時間をかけて検討していきたいと考えています
	中高生タイムを中心に7～8人の常連の中学生の利用があるものの、現状では継続的な利用とはなっていないため、中学生の力を行事等に活かす取組みにつなげていないことを課題として認識しています。一方で、児童館との信頼関係も少しずつ構築されていることもあり、時間をかけて継続的な活動や行事等へ取り組みを検討していきたいと考えています。
ポイント2	継続的な支援がさらに深められるよう、支援の流れの仕組化も期待されます

	<p>全体で共有しなければならないケース記録については、データとして保存されていることを確認していますが、子どもの支援についてアセスメント、支援計画の作成、実行、モニタリング、計画の見直し、というような一連の流れは現状では確認できませんでした。また、日々の子どもへの対応や課題に関する記録は、日誌への記入や介助者記録等への記入に留まっています。他機関・団体と連携しながら継続的に支援を行い、子どもたちの放課後を豊かに深めていくためにも、流れを整理して仕組化を検討することも視座に入れて活動しても良いと思います。</p>
--	---